

初等教育音楽科授業において実際の演奏による鑑賞指導を効果的に行う授業の在り方についての実践的研究

A Practical Study on the state of the lesson which performs Appreciation Instruction effectively by the actual Performance in the Music Education in Elementary School

村澤由利子*, 吉見 隆史**

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748

鳴門教育大学芸術系(音楽)教育講座*

〒779-1101 那賀郡羽ノ浦町大字中庄字原婦知1

羽浦小学校**

Yuriko MURASAWA*, Takashi YOSHIMI**

Arts (Music) Education, Naruto University of Education

748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-city, Tokushima 772-8502, Japan*

Hanoura Elementary School

1 Harabuti, Nakanoshou, Hanoura-cho, Nakagun 779-1101**

抄録: 小学校の音楽科授業における鑑賞指導は、録音媒体で楽曲提示を行うよりも、実際の演奏で行う方が、児童の興味・関心は飛躍的に高まることが今までの研究から分かってきた。そこで、実際の授業の中で、録音媒体による提示と実際の演奏による提示の順序を変えることにより、児童の興味・関心と、音楽そのものに目を向ける態度はどのように変化するかをアンケートにより調査した。その結果、順序の組み合わせの違いは、児童が実際の演奏による迫力や感動を手がかりにして音楽のよさを味わうか、事前に録音媒体で大まかな音楽像を獲得しそれを手がかりとして実際の演奏により素晴らしさを味わうかの違いにつながることが明らかになった。

キーワード: 鑑賞指導 実際の演奏 録音媒体 楽曲提示

Abstract: The previous research has shown that in music appreciation instruction, pupil's interest and concern increase obviously when music was presented by actual performance rather than recording medium. In this study, we investigated pupil's interest and response for music lessons by changing the order of presentation of actual performance and recording medium. Consequently, changing the order of presentation revealed that pupils could appreciate music with the strong impression from actual piano performance, or they could enjoy music very much in actual piano performance if they acquired the music image from recording medium previously.

Keywords: appreciation instruction, actual piano performance, recording medium, music presentation

はじめに

2002年の教育改革国民会議の答申を受け、学校現場にも教育改革の波が押し寄せている。「特色ある学校づくり」として各校で様々な学校経営が行われ、「開かれた学校づくり」や「学校評価」を強力に押し進めている。そのために、家庭や地域、さまざまな関係機関、外部人材などとの連携が重視されている。

折しも、近年文化施設の充実が進み、コンサートホールが県内4市だけでなく、那賀郡、海部郡、麻植郡、板

野郡など各郡内にも創られ、県内の音楽界もめざましく発展している。

学校の状況に目を移せば、昨年度も統廃合が進み、スクールバスなどの児童を移動させる手段の整備が、教育委員会を中心に進んでいる。

これらの状況を生かせば、コンサートに行く機会を増やすことができるであろう。学校と教育委員会や文化施設などとの連携を図り、地域の中に文化的行事を開催し、その催しに学校から児童が参加する。スクールバスを使用すれば、近くに施設があるので往復にかかる時間は15

分程度である。日課表の柔軟化を図れば、平日の授業として、音響の整った施設でコンサートを鑑賞することが可能である。しかも、ここ数年でこの傾向にはさらに、拍車がかかることが予想できる。

音楽科教育の鑑賞の授業は、つい10年ぐらい前までは、レコードによる録音媒体で行うのが普通であった。それが、CDの普及により、より音質のよい媒体を子どもに提示できるようになった。さらに、ビデオテープやLDにより音楽と画像を提供することが可能になり、授業の幅が大きく広がった。

そして、最近ではDVDの登場により、さらに手軽に教育機器が利用できるようになっていた。わずかな年月の中で、これだけの変化があることは、20年前には想像さえもできなかった。学校に於ける音楽の授業時間の中で実際の演奏による提示で学習を進めるといふ夢のような教育環境も、現在の時代の流れからすると、20年後には当たり前になっているかもしれない。

しかし、どのような進んだ提示が可能になったところで、旧態依然の授業が行われていたのでは、せっかくの環境を生かすことができないのは明白である。

反対に、時代の流れのスピードに対応した授業の発展ができれば、児童により高質の授業を展開でき、その質は今後飛躍的に向上するであろう。鑑賞の授業を現時点から研究していくことの意義は大きい。そこで、現場での鑑賞の授業に対応できる成果を出したいと考え、本研究に取り組んだ。

I 研究にあたっての考え方

音楽科の学習において、鑑賞は非常に重要な意味を持つ。「すなわち、子供たちの音楽の学習活動は、音楽の鑑賞活動に始まり鑑賞活動に終わるといっても過言ではないであろう。」⁽¹⁾という言葉や、「すでに述べた『学習』や『指導』の全般的立場からしても、鑑賞こそ音楽教育の絶対的中核である。」⁽²⁾という考え方は、まさにこのことを示している。また、「われわれは常にナマの音楽と主要な結びつきをもつべきで、録音された音にのみ頼らないようにさせたいからです。」⁽³⁾「しかし、われわれの周囲にある無数の音楽の中で、何と云っても、実際の生の演奏を聴く美しさに、まさるものはありません。」⁽⁴⁾という主張にもあるように、鑑賞の指導を行うときに、実際の演奏による授業の重要性は今まで指摘され続けてきた。

本研究は、「初等教育音楽科授業において児童が興味や関心を示す楽曲提示条件についての実践的研究—実際の演奏と録音の再生との違いによる児童の反応について」⁽⁵⁾と「初等教育音楽科授業における疑似演奏体験と実際の演奏による効果的な鑑賞指導についての実践的研究」⁽⁶⁾を受けて行うものである。これらの研究で、実際の演奏に

よる鑑賞活動の方が録音媒体を使ったときよりも次の点で効果的であることがわかった。

1 これまでの研究の成果

- ① 実際の演奏による授業を受けた児童は、自分も弾いてみたいという演奏への強いあこがれを持って音楽を聴くことができる。
- ② 演奏者と児童の間にインタラクティブな関係ができたとき、児童の音楽に対する興味関心は、非常に高まる。
- ③ 実際の演奏による授業の展開の中で、児童が音楽と演奏者のテクニックや表情を同時に感じ取っていることがわかった。

そこで、この度は、今までの研究課題の具体化を図った上で、研究の方向を定め、実際の授業を進める上での留意点や授業の組み立ての在り方について、研究を進めることにした。

2 課題の具体化と研究の方向

昨年は、上の「(1) これまでの研究の成果」の②を取り上げ、疑似演奏体験という概念の活動を作り、実践研究を試みた。今年は、①と③について、課題を具体化し、研究の方向を探ってみたいと思った。

① 授業の組み合わせについて

実際の学校現場では、実際の演奏による鑑賞の授業がベストであることを知っていても、授業の度毎に同じ曲を実際の演奏として提示することは難しい。そこで、「実際の演奏による授業と録音媒体による授業を、どのように組み合わせれば実際の演奏を効果的に指導に生かせるか」という方向で研究を進めていくことにする。

② 授業の組み合わせ方による児童の反応の違いについて

授業の組み合わせ方を考えた場合、単純に捉えれば、次の2種類の組み合わせができる。

「実際の演奏→録音媒体による授業」

「録音媒体による授業→実際の演奏」

ここで、「最初の授業時数をどの程度確保するか」「第1時の授業と第2時の授業の間をどの程度空けるのか」など、細かい条件設定によって、結果が変わってくるということが考えられる。研究が進むにつれて、このような細かい条件を考慮した調査を行うことにし、今回は、順序性だけを視点に研究を行うことにした。そして、次に、この視点から予想される児童の様子を模索し、研究を進め

ていく上での基礎にしたいと考えた。

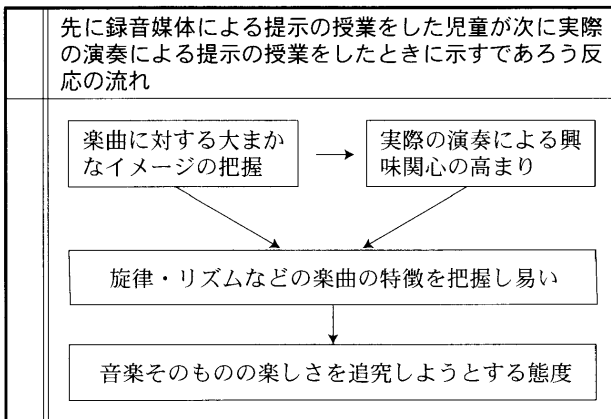
II 研究の進め方

1 予想される児童の思考の流れ

① 録音媒体による楽曲提示で進める授業を先に行った場合

児童は、CDやLD等によって、楽曲に対する大まかなイメージを掴むことができる。このイメージは、次に実際の演奏による楽曲提示の授業を行ったとき、音楽の特徴を把握することに有効に働くのではないかと考える。すなわち、録音媒体を使った授業の時は、児童の興味関心を高めることを大きなねらいとするのではなく、楽曲の特徴を理解することに重点を置くようにする。そうすれば、実際の演奏による授業を行ったとき、高まった興味関心が音楽そのものの特長を味わう方向に働くのではないかと考えた。イメージとしては、表1の通りである。

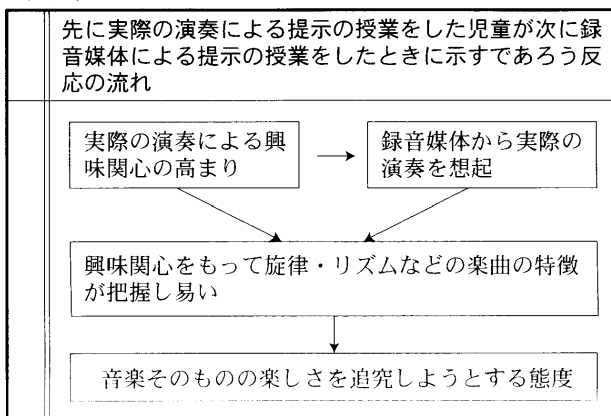
(表1)



② 実際の演奏による楽曲提示で進める授業を先に行った場合

児童は、非常な興味関心をもって演奏技能と楽曲を楽しむと思われる。録音媒体とは違い、実際の演奏は音楽のエネルギーや迫力を直接五感で感じ取ることができる。

(表2)



この経験が、その後の録音媒体による楽曲提示の授業

を行ったときにも働き、録音媒体から実際の演奏のときの様子を想起し、音楽そのものに興味関心を持ちながら楽曲の特徴を把握することができるのではないかと考えた。イメージとしては、表2の通りである。

2 研究の手順

そこで、次のような手順により、研究に取り組むことにした。

① 研究の方法

検査対象児童を次の2つのグループに分け、それぞれ、次の表にあるような順序で2時間の授業を行った。

	Aグループ	Bグループ
学年	小学5年	小学5年
人数	26名	25名
授業の順序	第1時で録音媒体を使った楽曲の提示を行い、授業をする。 第2時で実際の演奏による楽曲の提示を行い、授業をする。	第1時で実際の演奏による楽曲の提示を行い、授業をする。 第2時で録音媒体を使った楽曲の提示を行い、授業をする。
児童の観察	録音媒体を使った授業と実際の演奏による授業でそれぞれ使う2種類のアンケート用紙を用意し、授業と並行して記入させ、後で比較検討する。細かい表情などについては、ビデオを撮って参考にする。	

② アンケートの内容

アンケート内容は、次の通りである。

【録音媒体を使った授業で行ったアンケートの項目】

1. ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、ちがっているところは何だと思いますか。
2. ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、同じところは何だと思いますか。
3. ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、「おもしろい」と思うところはどこですか。
 - (1) 迫力
 - (2) ふし
 - (3) リズム
 - (4) 細かな音符の動き

※それぞれの項目に次の選択肢をつけた

 - ・とてもおもしろい
 - ・おもしろい
 - ・まあまあ
 - ・あまりおもしろいとは思わない
 - ・おもしろくない

【実際の演奏による授業で行ったアンケートの項目】

1. ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、ちがっているのは何だと思えますか。
2. ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、共通しているのは何だと思えますか。
3. ピアノの近くで聴くのと、席に座って聴くのとどちらがいいですか。
 - ・ピアノの近くで聴くのがいい
 - ・席で座って聴くのがいい
 理由：
4. ピアノの近くで聴いていたとき、どんなことをしていましたか。
 - ・ピアノを弾いている先生の指をみていた。
 - ・ピアノを弾いている先生の楽譜を見ていた。
 - ・ピアノを弾いている先生の体の動きを見ていた。
 - ・友だちと顔を見合わせた。(理由：)
 その他：
5. ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、「おもしろい」と思うところはどこですか。
 - (1) 迫力
 - (2) ふし
 - (3) リズム
 - (4) 細かな音符の動き
 ※それぞれの項目に次の選択肢をつけた
 - ・とてもおもしろい
 - ・おもしろい
 - ・まあまあ
 - ・あまりおもしろいとは思わない
 - ・おもしろくない

③ 授業の展開について

授業の展開については、録音媒体を使った場合と実際の演奏を聴いた場合とに分け、次のような展開案を準備した。

(ア) 録音媒体を使った授業のねらいと展開

- ・ねらい
 - CDを利用し、ベートーヴェンとモーツァルトのトルコ行進曲の楽しさを味わう。
- ・展開

学習活動	留意点
1 既習曲を歌う	1 楽しい授業の雰囲気を作る。
2 ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」を聴く。	2 2つの楽曲の大まかなイメージを捉える。

3 2つの作品に共通の特徴を聴き取る。	3 二つの楽曲の共通点や相違点に注意しながら聴く活動を通して、楽曲の特徴を把握できるようにする。
4 本時の学習を振り返る。	4 ワークシートに感じ取ったことや意見をまとめ、本時の学習内容を整理する。

(イ) 実際の演奏による授業のねらいと展開

- ・ねらい
 - 実際の演奏を聴き、ベートーヴェンとモーツァルトのトルコ行進曲の楽しさを味わう。
- ・展開

学習活動	留意点
1 既習曲を歌う	1 楽しい授業の雰囲気を作る。
2 ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」を聴く。	2 2つの楽曲の大まかなイメージを捉える。
3 ピアノの近くで、演奏者の様子を観察しながら作品を味わう。	3 演奏者の息づかいやエネルギーを感じ取りながら鑑賞する活動を通して、興味関心を高める。
4 本時の学習を振り返る。	4 ワークシートに感じ取ったことや意見をまとめ、本時の学習内容を整理する。

④ 楽曲について

(ア) ベートーヴェン作曲「トルコ行進曲」について

この曲は、祝祭劇「アテネの廃墟」の付随音楽として作曲されたものである。トルコの軍楽隊を思わせる打楽器のリズムとともに有名な旋律が繰り返される。その中で曲全体が PP から ff を経てまた PP へと移り変わり、軍楽隊が近づいてきてやがて遠ざかっていく様子を思い浮かべることができる。⁷⁾ 録音媒体による授業のとき、児童はオーケストラの演奏を聴き、実際の演奏による授業の時にはピアノ⁸⁾による演奏を聴いている。もともとオーケストラによる演奏だったため、ピアノに編曲されたCDが用意できなかったため、このような変則的な提示の仕方になった。編曲された楽譜は、演奏者の方で即興的にアレンジし、よりオーケストラ演奏に近いものにして児童に提示した。

(イ) モーツァルト作曲「トルコ行進曲」について

ピアノソナタ第11番イ長調 (Sonata for Piano No.11 in A major, K.331) の第3楽章として有名である。⁹⁾ この曲は、録音媒体を使ったときも実際の演奏のときももちろ

んピアノで演奏された。実際の演奏の時には、授業の展開上、何度も繰り返し提示するようになるので、繰り返しなどを演奏者が変化を加えて演奏した。

Ⅲ 研究の実際

1 児童の実態

AグループBグループとも、県南の同じ小学校の5年生の協力が得られた。この学校は、豊かな農村地帯にある大規模校である。児童は素直で明るいが、やや引っ込み思案なところが見られる。Aグループ(26名)Bグループ(25名)は、それぞれクラスを単位としているが、どちらのクラスも本年度クラス分けしたもので、その時点でほぼ均等な条件になるように配慮してある。音楽の授業は、両組とも同じ教師が入っており、質的にも人数的にも均等な集団であると考えられる。

2 授業の実際

① Aグループの録音による授業について

(実施年月日 2004年7月15日)

既習曲「それは地球」の斉唱で授業を始めた。アンケート用紙を配布した後、CDでベートーヴェンのトルコ行進曲を提示した。1名だけリズムに合わせて鉛筆を動かしている児童がいたが、後はじっと聴いている様子だった。続いてモーツァルトのトルコ行進曲を提示した。首を軽く動かしてリズムを取っている児童が1名、鉛筆でリズムを取っている児童が1名認められたが、後の児童はやはりじっと聴いているという状態だった。終わった後、聴いたことがあるかどうかたずねると、ほとんどの児童が手を挙げた。CDの演奏に合わせて鉛筆で指揮をするよう働きかけると2名の児童はじっとしていたが、後は曲に合わせて振っていた。特に、モーツァルトの曲の時は、強いときは大きく振るといった工夫を自然にしている児童が1/4ほど認められた。後は、アンケートの質問事項に沿って、CD鑑賞をして終わった。児童は、小さくリズムを取りながら一生懸命聴いていた。

② AグループBグループの実際の演奏を聴いた授業について

(実施年月日 2004年7月16日)

実際の演奏による授業は、たびたび行うわけにはいかない。そこで、AグループとBグループを一緒にして授業を行った。最初、演奏者からトルコ行進曲についての説明があったあと、児童はベートーヴェンのトルコ行進曲、モーツァルトのトルコ行進曲の順に鑑賞した。聴きながらアンケートの記入を行った。聴き終わった後には、指示したわけではないのに大きな拍手を送っていた。近くで聴きたいかたずねると、「聴きたい」という答えが

返ってきた。児童の興味関心は、かなり高まっている様子だった。まず、Bグループがピアノの回りで聴くことになったが、児童は食い入るように演奏を見ていた。次のAグループも同じような状態が見られた。アンケートを書く時間を設定した。その間、演奏を続けていたところ、書き終えた児童が次々とピアノの回りに集まり友達と顔を見合わせたりしながら聴いていた。

授業後も、ピアノのところに行って演奏者をまねて弾こうとしている児童がいた。

③ Bグループの録音による授業について

(実施年月日 2004年7月16日)

実際の演奏による授業の約15分後、Bグループの録音を使った授業を行った。ベートーヴェンとモーツァルトの曲をCDで提示したが、実際の演奏の時のような身体反応や興味を示す表情は見せなかった。ただ黙々とアンケートに答えているという印象だった。授業の後半、CDを聴いている途中でピアノ演奏の動きの模倣をしている児童があり、他の児童にも広がっていった。ベートーヴェンのトルコ行進曲のときよりもモーツァルトの時の方がより曲にのった模倣ができていた。

3 結果とその考察

授業後のアンケート結果は次のとおりだった。

① ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」の相違点や共通点についての感じ取り方を調べたアンケートについて

(ア) 結果

録音媒体による授業のアンケート結果

問い：ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、違っているのは何だと思いませんか。

Aグループの結果 ○数字は回答数

曲想に関するもの⑧
 ・モーツァルトは初めのほうからはじけている感じで、ベートーヴェンはどっしりして少々遅い等
 要素に関するもの⑩
 ・速さ、力強さ、曲の長さ等
 構成に関するもの④
 ・モーツァルトはいろいろと曲が変わっていく等
 表現媒体に関するもの⑧
 ・ベートーヴェンはいろいろな楽器で演奏されているがモーツァルトはピアノだけ等

Bグループの結果 ○数字は回答数

曲想に関するもの⑨
 ・音楽が激しい等
 要素に関するもの⑩
 ・テンポやリズム等
 構成に関するもの③
 ・ベートーヴェンの方は、終わるところが小さくなっていった等
 表現媒体に関するもの6
 ・ベートーヴェンはたくさんの楽器で演奏 等

録音媒体による授業のアンケート結果

<p>問い：ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、同じなのは何だと思いますか。</p>
<p>Aグループの結果 ○数字は回答数</p> <p>曲想に関するもの なし 要素に関するもの⑬ リズム・速さ等 構成に関するもの⑫ 変わり方等 表現媒体に関するもの なし</p>
<p>Bグループの結果 ○数字は回答数</p> <p>曲想に関するもの なし 要素に関するもの⑮ テンポ 音の大小等 構成に関するもの⑧ 音の強弱が変わるところがある等 表現媒体に関するもの なし</p>

実際の演奏による授業のアンケート結果

<p>問い：ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、違っているのは何だと思いますか。</p>
<p>Aグループの結果 ○数字は回答数</p> <p>曲想に関するもの⑤ ・力強さがちがう等 要素に関するもの⑩ ・強弱がはっきりとしている等 構成に関するもの なし 表現媒体に関するもの⑤ ・使った楽器 等</p>
<p>Bグループの結果 ○数字は回答数</p> <p>曲想に関するもの⑦ ・気持ちよくなる 迫力 激しさ等 要素に関するもの⑮ ・リズム、速さ 等 構成に関するもの なし等 表現媒体に関するもの② ・ベートーヴェンのは軽く弾くのが多い モーツァルトのは強く弾くのが多い 等</p>

実際の演奏による授業のアンケート結果

<p>問い：ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、同じなのは何だと思いますか。</p>
<p>Aグループの結果 ○数字は回答数</p> <p>曲想に関するもの⑦ ・迫力、力強さ 要素に関するもの⑫ ・リズム、速さ 構成に関するもの④ ・リズムが変わったりするところ等 表現媒体に関するもの① ・演奏がオーケストラかピアノか等</p>
<p>Bグループの結果 ○数字は回答数</p> <p>曲想に関するもの なし 要素に関するもの 24 速さ 音の大小 構成に関するもの なし 表現媒体に関するもの なし</p>

(イ) 考察

これらの項目については、AグループとBグループの間に明らかな違いを見いだすことができなかった。質問項目が抽象的であったため、児童も視点を絞った答え方ができなかった様子が見られる。ただ、共通点をたずねた項目の中で、答えの範囲が要素に関するものと構成に関するものに分かれたことは、児童が共通点を見出そうとする意欲が、直感的に音楽の構造そのものに目を向けようとしたことの現れであると考えている。曖昧なたずね方でもこれだけの児童の意識が働くのであるから、的を射た質問内容や具体的なたずね方は、視点の定まった答えとなって返ってくるであろう感触を得ることができた。

② おもしろさの視点を調べたアンケートについて

(ア) 結果

録音媒体による授業のアンケート結果

<p>問い：ベートーヴェンとモーツァルトの「トルコ行進曲」で、「おもしろい」と思うところはどこですか。</p> <p>A：とてもおもしろい B：おもしろい C：まあまあ D：あまりおもしろいとは思わない E：おもしろくない</p>

Aグループの結果

①迫力		A	B	C	D	E
ベートーヴェン		15	5	2	2	3
モーツァルト		13	5	5	1	0
②ふし		A	B	C	D	E
ベートーヴェン		7	6	7	4	2
モーツァルト		19	4	3	2	1
③リズム		A	B	C	D	E
ベートーヴェン		11	7	4	2	1
モーツァルト		22	2	0	0	1
④細かな音符の動き		A	B	C	D	E
ベートーヴェン		4	6	6	3	3
モーツァルト		19	7	1	0	0

Bグループの結果

①迫力		A	B	C	D	E
ベートーヴェン		6	13	0	0	0
モーツァルト		20	2	1	2	0
②ふし		A	B	C	D	E
ベートーヴェン		13	7	0	0	0
モーツァルト		22	1	1	0	0

③リズム

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	10	7	2	0	0
モーツァルト	20	3	1	0	0

④細かな音符の動き

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	12	9	1	0	0
モーツァルト	18	5	0	0	0

実際の演奏による授業のアンケート結果

Aグループの結果

①迫力

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	15	6	0	0	2
モーツァルト	22	4	2	0	0

②ふし

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	10	6	6	1	1
モーツァルト	21	2	1	0	0

③リズム

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	13	6	1	1	2
モーツァルト	22	1	0	1	0

④細かな音符の動き

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	13	7	2	1	3
モーツァルト	25	1	1	0	0

Bグループの結果

①迫力

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	10	7	5	1	0
モーツァルト	20	1	1	1	0

②ふし

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	9	9	4	0	0
モーツァルト	17	4	3	0	0

③リズム

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	9	8	3	1	0
モーツァルト	17	5	1	0	0

④細かな音符の動き

	A	B	C	D	E
ベートーヴェン	5	13	1	0	0
モーツァルト	18	2	0	0	0

(イ) 考察

Aグループでは、初めて録音媒体でベートーヴェンの「トルコ行進曲」を聴いて、「細かな音符の動き」をおもしろいと感じた児童からおもしろくないと感じた児童までが散らばっていた。それに対して、先に実際の演奏による授業を終えてから録音媒体による授業を受けた児童は、ベートーヴェンのトルコ行進曲の「細かな音符の動き」をとてもおもしろいと感じている割合が高い。これ

は、実際の演奏により、旋律の中の装飾音やそれぞれの音の動きが視覚と聴覚の両方から印象づけられたからではないかと考えられる。また、Aグループが実際の演奏による授業を受けたときも、Bグループが録音媒体で授業をしたときとよく似た結果が「細かな音符の動き」に出てきている。このことから考えて、実際の演奏による授業は、音符の動きを視覚的・聴覚的に印象づける効果があり、それは、その後の録音媒体を使った授業にも生きている可能性のあることがわかった。

③ 実際の演奏による授業で、ピアノの近くで聴いていたときの児童の行動を調べたアンケート

(ア) 結果

実際の演奏による授業のアンケート結果

問い：ピアノ近くで聴いていたときどんなことをしていましたか。
A：ピアノを弾いている先生の指を見ていた。
B：ピアノを弾いている先生の楽譜を見ていた。
C：ピアノを弾いている先生の体の動きを見ていた。
D：友だちと顔を見合わせた（理由： ）

Aグループの結果

指を見ていた	25
楽譜を見ていた	4
体の動きを見ていた	8
友だちと顔を見合わせた	3
理由・びっくりしたから・どういうふう弾いているか・すごかったから	
その他	8
・すぐすばやく弾いて力強さとかがすごかった。	
・すごく速かったのでびっくりした。	
・足なども見ていた。	
・もう一度近くで聴きたい。	
・先生はすごいと思った。	
・強く弾くときペダルを踏んでいるか見た。→踏んでいた。→ペダルを踏まないと強い音が出ない。	
・すごすぎると思った。	
・とても速い・足・モーツァルトの曲を先生が弾いているのを見て、指がすごく速く動いていて感心した。	
・ピアノの中（ハンマーとかがある所）を見ていた。	

Bグループの結果

指を見ていた	25
楽譜を見ていた	7
体の動きを見ていた	9
友だちと顔を見合わせた	2
理由・すごすぎるなーと思って・すごいなど	
その他	2
・最初一人でじっくり聴いていたら、とてもいい曲に感じたけれど、2回目のとき、友だちといっしょに話しながら聴いていたら、短縮したような気がした。	
・指の動きが気になった。	

(イ) 考察

選択肢の結果は、AグループBグループ共に大きな違いは認められなかった。ただ、その他の項は、Bグループが2であるのに対し、Aグループの方が8と圧倒的に多い。その内容を見ると、Aグループの方が、児童の希望や思いが強く出ている。つまり、興味関心が高まっている様子がはっきりと分かる。内容については、「ペダルを踏まないと強い音が出ない」と、事実とは違う認識をしているが、自分なりに疑問を持ち、それなりの探究活動に取り組んだ様子が見られるなど、興味関心の高まりが課題解決の活動に広がりを感じ始めている様子も認められる。

④ 実際の演奏による授業で、演奏者と児童の距離について調べたアンケート

(ア) 結果

実際の演奏による授業のアンケート結果

問い：ピアノ近くで聴くのと、席に座って聴くのとどちらがいいですか。 A：ピアノの近くで聴くのがいい B：理由：席で聴くのがいい	
Aグループの結果	
ピアノの近くで聴くのがいい	24
席で聴くのがいい	2
理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・先生がどういうふう弾いているのかがよくわかる。 ・迫力がある。 ・指の動きが見られるから。 ・指先を見たいから。 ・席で聴くよりもきれいに聴こえる。 ・ピアノの音がとてもよく聴こえていたから。指使いもよく見えたから。 ・指の速さが見えて迫力があるから。 ・立っていても、楽しくなるから。ピアノが踊っているし、弾いている人も踊っているみたい。 ・指使いが見たいから。 ・音がはっきり聴こえる。工夫などがよく見える。 ・指などが見えるから。 ・ペダルを踏んでいるかとかオクターブを弾いているかとかを見たいから。 ・弾いているのも見えるし、よく聴こえる。 ・どんな速さで弾いているのか、指はどんな動きをしているのか。 ・よく聴こえるから。 ・よく聴こえるし、弾いている先生の指を見ることが出来るから。 ・どんな指使いをしているかよくわかるし、表情もよくわかるから。 ・音がよく聴こえて、弾いている人の動きとか指の動きとかが分かる。 ・迫力があるから。 ・音や迫力がよく分かるから。 ・指の動きがよく見える。 ・近くの方が実際に弾いているということがわかる。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの全体が見えるから。 ・先生が弾いている様子がよく分かるから。 ・音がよく聴こえるから。 ・近くで聴くと耳がいたくなる。 	
---	--

Bグループの結果	
ピアノの近くで聴くのがいい	25
席で聴くのがいい	1
理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・手の動きやリズムをとっているのかを見たいから。 ・速くておもしろい。 ・音がよく聴こえるし、弾いている人の手の動きが見えるから。 ・指先が見える。 ・よく響いて、音がきれいだったから。 ・どのくらいの速さでゆびを動かしているのかを見たかったから。 ・指の動きや、どんなふしか見えるから。 ・ピアノの近くで聴いた方は、とても指の動き、楽譜、体の動きなどがよく分かるけど、席で聴いた方は、音を楽しむだけで、おもしろくないから。 ・手の動きがよくわかるから。 ・指の速さが見たいから ・指の動きが見えてすごいから。 ・指使いがどんなに速いか見られるから。 ・近くの方がよく聴こえるので。 ・どんなふう弾いているのか知りたいから。 ・音がよく聴こえるし、指がよく動いているのがよく見えるから。 ・音がよく聴こえる。(手先が分かる) ・弾いているところがよく見えるから ・見えるから。 ・手の動きがよく見えて、どんな弾き方が分かるから。 ・先生の指が見えて、音も大きいから ・近くで聴いた方が感動するから。 ・弾き方とか速く弾けるところとかが見えるから。 ・指など音がすごくわかりやすく聞こえる。 ・指がよく動くのが見えて、音も迫力がある。 ・指先の動きを見たかった。 	

(イ) 考察

児童が音楽そのものをどの程度捉えているかについて調べるために、理由の中の音楽に関係するものを残し、技能的なものに関する理由を整理し直すと次のようになる。

Aグループ	
<ul style="list-style-type: none"> ・迫力がある ・席で聴くよりもきれいに聴こえる。 ・ピアノの音がとてもよく聴こえていたから。 ・指の速さが見えて迫力があるから ・音がはっきり聴こえる。工夫などがよく見える ・オクターブを弾いているかとかを見たいから ・弾いているのも見えるし、よく聴こえる。 ・表情もよくわかるから ・迫力があるから ・音や迫力がよく分かるから ・近くの方が実際に弾いているということがわかる 	

- ・ピアノの全体が見えるから
 - ・先生が弾いている様子がよく分かるから
 - ・音がよく聴こえるから
- 以上 14 項目

Bグループ

- ・音がよく聴こえる
 - ・よく響いて、音がきれいだったから
 - ・近くの方がよく聴こえるので
 - ・音がよく聴こえる
 - ・近くで聴いた方が感動するから
 - ・音も迫力がある
- 以上 7 項目

Aグループが、ピアノの近くで聴きたい理由に挙げたものの中で、音楽そのものを反応の要因にしていた意見は14項目あった。

それに対して、Bグループの方は、ちょうど半分の7項目だった。その内容を見ると、事前に録音媒体で授業を受けた児童は、実際の演奏を聴くとき、ピアノの演奏から受ける迫力や感動を、今まで捉えていた音楽像に取り入れて味わっている様子が伺われる。

また、初めてこの曲を、実際の演奏で聴いた児童は、間近で見る演奏から受ける迫力や感動に浸っている様子が伺える。

このことは、Bグループの理由の中にあった「ピアノの近くで聴いた方は、とても指の動き、楽譜、体の動きなどがよく分かるけど、席で聴いた方は、音を楽しむだけで、おもしろくないから。」という言葉に端的に表れている。

実際の演奏のよさは、今までの研究で明らかのように、児童が演奏者を通して音楽そのものを身近に感じ、耳だけでなく体全体で音楽を味わえるところにある。

これらの条件を考慮して実際の演奏による鑑賞の授業を含む指導計画を立てるならば、事前に録音媒体による授業を行うときには、大まかな音楽像が児童の中に育まれるよう留意するという視点が必要であることが分かる。

一方、まず、実際の演奏による授業を行い、その後で録音媒体による授業を行うときには、実際の演奏の時に味わった迫力や感動を想起させるような働きかけが必要であると分かった。

4 研究全体からの考察

研究を始める前の段階では、授業の順序性が、表1や表2のような児童への影響を与えていた。

しかし、注目すべきことは、実際の演奏による興味や関心の高まり以上に、身近に実際の演奏を聴いたときの迫力や感動であることが、アンケートの結果から分かってきた。

そして、実際の演奏による授業を、録音媒体を使った授業で生かすには、提示順序の違いにより、配慮の視点が違うことが分かった。

IV 今後の課題

今回のアンケートの質問項目は、児童の反応が十分に予想されていない段階で作成されたため、曖昧な質問内容になったという欠点があった。「ベートーヴェンとモーツァルトのトルコ行進曲の相違点と共通点」をたずねる質問項目で、結果として明確な特徴を見いだすことができなかったのは、質問項目の趣旨に問題があるのではなく、質問内容の具体性の不十分さと明確な結果を導き出すことのできる授業がなされなかったところに問題があるものと考えている。今後、指導計画の基礎的な考え方として有用な研究結果を出すために、アンケートの質問項目の検討を十分に行う必要がある。

さらに、順序性だけを課題とする段階から一步発展させ、第1次の配当時間や授業内容の工夫、その効果を有効利用できるような第2次の授業改善などを条件として加味した研究を今後進めていく必要があると考えている。

おわりに

教育環境・学校環境・児童の生活環境などの状況は日々大きな変化を遂げている。少子化問題、学校の統廃合、さまざまな子どもを巡る問題の蔓延など解決しなければならぬ問題がたくさんある。しかし、危機的な状況をチャンスに変えていく力がこれからの学校に求められている。子どもの心を蝕むさまざまな事件により、道徳教育や人権教育の大切さに気づかされ、同時に音楽教育の進展により、美しいものに感動する豊かな感性と情操を培うことの大切さも痛感される。その第1歩は、鑑賞指導である。新しい授業の開発を目指して、これからも研究を積極的に進めていきたい。

引用文献

- (1) 金本正武著 「子供と音楽のかかわりを深める音楽科授業論」 東洋館出版社 1997 p.185
- (2) J. L. マーセル著・供田武嘉津訳 「音楽教育心理学」 音楽之友社 1967 p.97
- (3) テレンス・ドワイヤー著 村田 武雄訳 「音楽鑑賞教育法」 財団法人音楽鑑賞教育振興会 1973 p.84
- (4) 有坂愛彦 著 「音楽鑑賞法」 音楽之友社 1987 p.18

参考文献

- (5) 村澤由利子他 「初等教育音楽科授業において児童が興味や関心を示す楽曲提示条件についての実践的研究－実際の演奏と録音の再生との違いによる児童の反

- 応について」 鳴門教育大学学校教育実践センター紀要 第17号 2002
- (6) 村澤由利子他 「初等教育音楽科授業における疑似演奏体験と実際の演奏による効果的な鑑賞指導についての実践的研究」 鳴門教育大学学校教育実践センター紀要 第18号 2003
- (7) 教育芸術社編集部監修 「鑑賞指導の手引 平成8～11年度用 教芸の小学校音楽鑑賞CD 教育芸術社【小学生の音楽】準拠」 日本コロムビア株式会社
- (8) ドレミ楽譜出版社編集部編著 「ドレミ・クラヴィア・アルバム ベートーヴェン・ピアノ名曲集」 ドレミ楽譜出版社 1998
- (9) 神保環一郎 「クラシック音楽鑑賞事典」 講談社学術文庫 1987